

第二期富士見市子ども・子育て支援事業計画（令和2年度～6年度）について

1 本市を取り巻く環境

(1) 統計データ

少子化の進行（0～11才人口 H27:11,637人→R6（見込み）:11,044人）

女性の就業率の向上（30～40代 H12:55.5%→H22:61.6%→H27:64.9%）

(2) ニーズ調査結果

無償化に伴い、保育ニーズのほか、未移行幼稚園の預かり保育のニーズ増

(3) 第一期計画の進捗状況から見た課題

保育所における待機児童（特に1～2才）の解消（計画未達）

増加する放課後児童クラブ在籍児童への対応

第一期計画未達の施策への対応（子育て支援センター等）

2 第二期計画の概要

(1) 基本理念

第一期計画における理念を継承し、子ども・子育て支援施策を推進します。

(2) 基本目標

【削除】（各施策の提供量自体が目標のため、一般的な目標設定は不要）

(3) 区域設定

1 区域【変更なし】

(4) その他

次世代育成支援行動計画の後継計画とするが、進捗管理はせず【変更点】

3 第二期計画の施策展開

(1) 教育・保育事業の必要量（需要）と提供量（供給）

①教育の提供

・必要量を上回る提供量は確保できているため、施設整備は不要

・少子化の影響を受ける一方、無償化に伴い未移行幼稚園の預かり保育は増加

	令和2年度	令和6年度
必要量	1,620人（226人）	1,482人（249人）
提供量	2,178人	2,178人

※（ ）は、預かり保育のニーズ

②保育の提供

- ・待機児（保留児ではなく）の解消を目指し、必要量を見込む

ア 待機児（H31.4:19人）がいる一方、施設の空きがある（H31.4:102人）

イ 保留児（H31.4:98人、うち1才児52人）の解消を目指す場合、保育所4～5施設又は小規模保育5～6施設が必要となり、現実的でない

H31.4（人）	0才	1才	2才	3才	4才	5才	合計
保留児	20	52	14	11	0	1	98
待機児	1	11	3	4	0	0	19
空き	4	10	16	13	19	40	102

- ・0才の必要量は横ばいであり、待機児がほぼいないため、施設整備不要
- ・1～2才の必要量は増加傾向であり、提供量を上回るため、小規模保育施設の整備を見込む（未移行幼稚園の認定こども園への移行でも可）
- ・3～5才の必要量は微増だが、既存施設に空きがあるため、施設整備不要

【0才】

	令和2年度	令和6年度
必要量	162人	157人
提供量	191人	191人

【1～2才】

	令和2年度	令和6年度
必要量	782人	821人
提供量	814人	833人
箇所数	33	34

【3～5才】

	令和2年度	令和6年度
必要量	1,140人	1,163人
提供量	1,258人	1,258人

（2）地域子ども・子育て支援事業（13事業）

①拡充

- ・放課後児童クラブ（針ヶ谷第2、諏訪第3クラブの施設増）
- ・子育て支援センター（1施設増。第1期計画未達のため）
- ・補足給付（無償化に伴う、未移行幼稚園に対する副食費の補足給付）
- ・一時預かり（幼稚園の預かり保育の必要量増）

②現状維持

利用者支援、延長保育、子育て短期支援、乳児家庭全戸訪問、養育支援訪問等、病児・病後児保育、ファミサポ、妊婦健診、他